

令和4年産 美里地区の稲作情報

宮城県美里農業改良普及センター

第7号 令和4年7月21日発行

TEL:0229-32-3115 FAX:0229-32-2225

http://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/



1. 気象経過

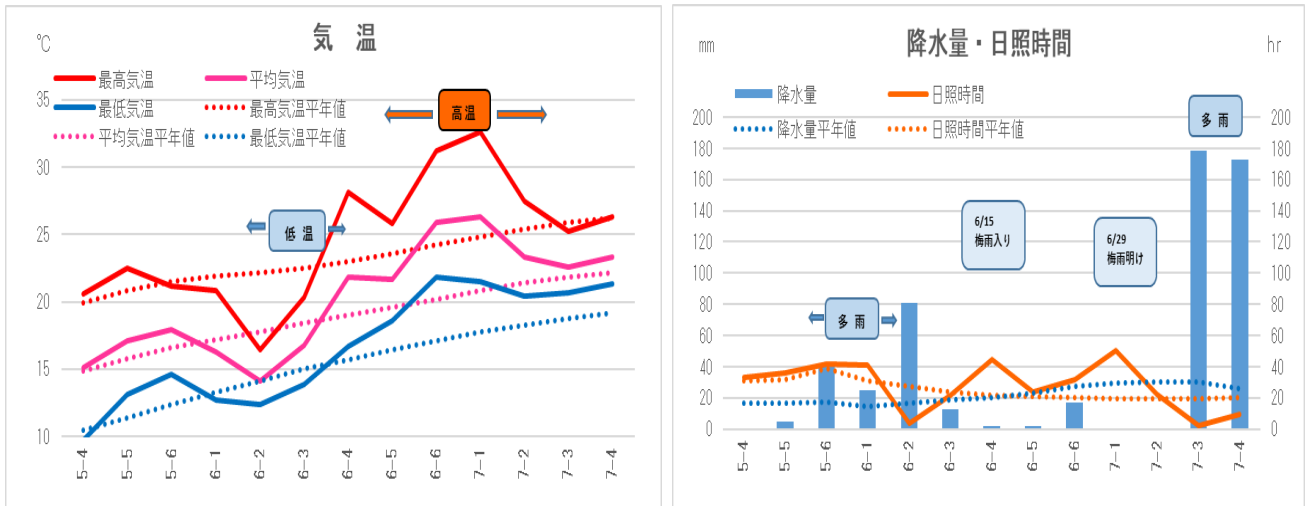


図1 田植後の半旬別気象経過（鹿島台アメダス） ※7月第4半旬は7/16～19間の数値

表1 令和4年7月15日22時から7月16日12時までの降水量(合計)

単位：mm

| 観測システム | 宮城県河川流域情報システム | | | アメダス | |
|--------|---------------|-------|-------|-------|-------|
| | 中淬 | 小里 | 涌谷 | 鹿島台 | 古川 |
| 地点 | | | | | |
| 計 | 201.0 | 194.0 | 163.0 | 232.0 | 211.5 |

- ・7月15日22時～7月16日12時までの降水量は163mm～232mmとなり、いずれの地点も、アメダス鹿島台の7月の平年値155.4mmを上回りました。
- ・1時間あたり降水量は、古川では午前2時台に68.5mm(観測史上1位)、鹿島台では午前0時台に49.5mm(7月の1位を更新)、中淬、小里、涌谷でも、午前1時台に40mm前後の激しい雨が観測されています。

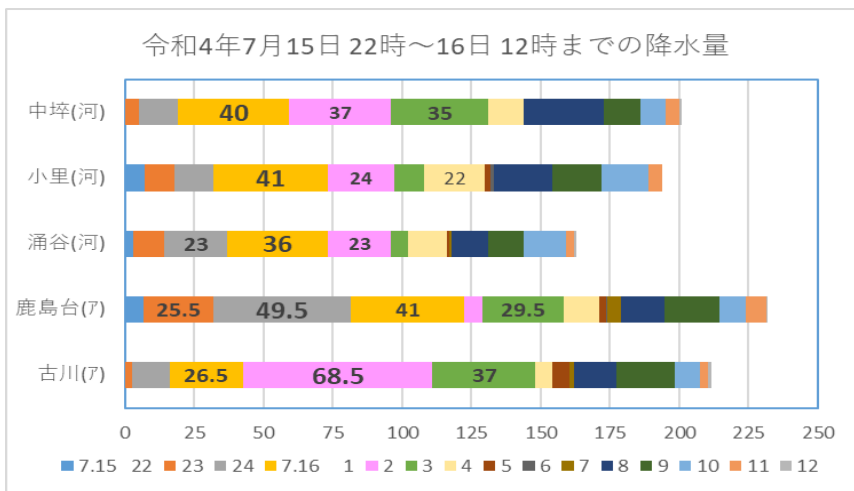


図2 令和4年7月15日22時から7月16日12時までの降水量(1時間毎)

2. 管内生育調査ほの生育概況

草丈、茎数は平年又は前年を上回りました。ひとめぼれ、だて正夢の葉色は、ほぼこの時期の目安値になっています。

表2 生育調査結果

| 表2 生育調査結果 | | | | | 7月11日調査結果 | | | | | 7月20日調査結果 | | | | | |
|--------------|--------------|------------------------|--------|-----------------------------|------------|---------------------------|-----------|---------------|-------------|------------|---------------------------|-----------|---------------|-------------|--------|
| 調査地点 | 品種 | 区分 | 田植日 | 栽植密度 (株/m ²) | 草丈 (cm) | 茎数 (本/m ²) | 葉数 (枚) | 葉色 (SPAD値) | 幼穂長 (mm) | 草丈 (cm) | 茎数 (本/m ²) | 葉数 (枚) | 葉色 (SPAD値) | 幼穂長 (mm) | |
| 移植 | 涌谷 (小塚) | ひとめぼれ | 本年値 | 5月6日 | 19.0 | 68.5 | 534 | 11.0 | 36.7 | 2.6 | 80.6 | 557 | 12.0 | 37.1 | 61.8 |
| | | | 前年比・差 | 2日早い | 102% | 116% | 113% | 0.2 | 86% | ▲1.1 | 107% | 120% | ▲0.2 | 94% | ▲85.6 |
| | | | 県平年比・差 | 7日早い | - | 113% | 95% | 0.2 | 91% | 0.2 | 112% | 107% | 0.1 | - | - |
| | 田尻 (桜田高野) | ひとめぼれ | 本年値 | 5月5日 | 15.9 | 73.5 | 509 | 11.1 | 38.1 | 3.5 | 82.7 | 523 | 12.2 | 35.6 | 22.6 |
| | | | 前年比・差 | 2日早い | 99% | 120% | 99% | 1.0 | 86% | ▲1.5 | 106% | 102% | 0.6 | 86% | ▲132.1 |
| | | | 平年比・差 | 6日早い | 98% | 118% | 124% | 0.1 | 86% | 2.0 | 111% | 109% | 0.2 | 89% | ▲26.9 |
| | 鹿島台 (広長) | ササニシキ | 本年値 | 5月12日 | 15.4 | 69 | 522 | 11.3 | 38.7 | 1.1 | - | - | - | - | - |
| | | | 県平年比・差 | 2日遅い | - | 118% | 85% | 0.6 | 99% | 0.1 | - | - | - | - | - |
| | | | 本年値 | 5月15日 | 16.1 | 82.3 | 506 | 11.0 | 42.7 | 0.8 | 90.00 | 499 | 12.1 | 39.5 | 4.6 |
| | 鹿島台 (木間塚) | だて正夢 | 前年比・差 | 2日早い | 98% | 130% | 120% | 0.3 | 89% | 0.5 | 110% | 123% | 0.3 | 91% | ▲4.4 |
| | | | 平年比・差 | 平年と同じ | 83% | 125% | 107% | 0.2 | 94% | 0.4 | 116% | 114% | 0.2 | 95% | ▲8.7 |
| | | | 本年値 | 5月6日 | 16.1 | 74.6 | 667 | 11.5 | 40.3 | 0.6 | 89.9 | 532 | 12.4 | 37.7 | 6.6 |
| 南郷 (和多田沼) | 金のいぶき | 前年比・差 | 4日遅い | 98% | 116% | 124% | ▲0.3 | 110% | ▲0.4 | 109% | 116% | ▲0.8 | 120% | ▲54.0 | |
| | | 過去平年比・差 | 2日遅い | 99% | 114% | 135% | ▲0.1 | 101% | ▲0.2 | 117% | 119% | ▲0.2 | 106% | ▲16.5 | |
| | | 本年値 | 5月3日 | 17.4 | 63.9 | 602 | 10.3 | 38 | 0.8 | 84.8 | 637 | 11.6 | 42.6 | 2.2 | |
| 直播 | 小牛田 (荻埜) | ゆみあずさ (鉄コーティング浸水阻層) | 前年比・差 | 2日早い | 104% | 98% | 102% | 0.2 | 93% | 0.8 | 101% | 120% | 0.2 | 116% | ▲16.2 |

※平年値は過去5年間の平均値。過去平均は5年未満の平均値。

※鹿島台ササニシキは、7/15~16の大雨による冠水のため調査せず。

3. 今後の栽培管理

(1) 出穂期の予測

管内の中生品種(ひとめぼれ等)の出穂期は8月4日頃と予想されます。防除等は遅れないように注意して下さい。

表3 生育ステージの予測値 (7月20日現在)

| 移植日 | 5月1日 | 5月5日 | 5月10日 | 5月15日 | 5月20日 |
|-----|----------|---------|---------|----------|----------|
| 予測値 | 7/31~8/2 | 8/2~8/4 | 8/3~8/7 | 8/6~8/10 | 8/9~8/12 |

※主稈葉齢予測モデル(普及に移す技術第80号)を用いた予測値。

移植時葉齢を2.5葉~3.5葉として予測。

平均気温は7月18日までは鹿島台アメダスの実測値、7月19日以降は平年値。

(2) 出穂後の水管理

1) 出穂後の水管理

穂ばらみ期から出穂・開花期前後は、水の吸収量が最も多い時期です。この時期に水分が不足すると、幼穂の発育や開花受精が妨げられ、収量・品質に影響します。

出穂期は「浅水管理」とし、その後は登熟後期まで根の活力を維持するため、「間断かん水」や「飽水管理」を行いましょう。

出穂後25日頃には玄米千粒重の80%以上が確保されますが、高品質・良食味とするため、落水は出穂後30日以降に行いましょう。

(3) 病害虫防除

1) いもち病

7月15日に、管内を含む感染好適条件の広域出現日が発生しています。(BLASTAMによる推定)。

いもち病は感染すると1~2週間で病斑の発生が広がります。**曇天の日が続くと、今後も感染好適条件が出現する可能性があります。**こまめにほ場を確認し、病斑を発見したらただちに防除を行いましょう。

上位葉の葉いもちが穂いもちの発生源になります。

また、追肥後は一時的に稲体の窒素濃度が高まり、いもち病に対する抵抗力が弱まります。穂いもちの予防防除を行っていないほ場や、金のいぶき、萌えみのり等、いもち病に弱い品種で病斑の発生を確認した場合は、発生状況により防除を検討しましょう。

茎葉散布剤による穂いもちの防除は、1回目を出穂直前に、2回目を穂揃期に行います。

葉いもちの発生が多く、穂いもちの多発する恐れがある場合や出穂期間が長引く場合には、3回目を穂揃期の7~10日後に実施しましょう。

表4 葉いもちと穂いもちの相関関係
(加藤 昭49)

| 葉いもち | 穂いもち | |
|------|-------|-------|
| | 籾いもち | 首いもち |
| 病斑数 | | |
| 止葉 | +0.89 | +0.81 |
| n-1葉 | +0.93 | +0.92 |
| n-2葉 | +0.82 | +0.86 |
| n-3葉 | +0.58 | +0.74 |
| n-4葉 | +0.39 | +0.35 |

2) 紋枯病

昨年発多発したほ場では、ほ場に菌核が残っており、本年も発生することが懸念されます。特に高温で降雨が多いと発生が広がります。

紋枯病は登熟不良、倒伏の原因にもなるので、多発が予想されるほ場では、穂ばらみ期~出穂期に薬剤による防除を行いましょう。

○要防除水準(収量が5%以上の減収を想定して防除する場合)

穂ばらみ期の発病株率が「ひとめぼれ」18%、「ササニシキ」10%

3) 斑点米カメムシ類

○基本の薬剤防除 ※薬剤は畦畔も含めて散布しましょう。

1回目:穂揃期 → 2回目:穂揃期の7~10日後

○イヌホタルイ発生水田の場合

1回目:出穂始~穂揃期 → 2回目:穂揃期の7~10日後

斑点米の発生を防止するため、畦畔の草刈りは出穂10日前までに行いましょう。

4) イネツトムシ(イチモンジセセリ)

直播栽培など一般ほ場より生育ステージが遅く、葉色が濃いと被害が大きい傾向があります。

○防除適期:第2世代若齢幼虫発生盛期(7月下旬~8月上旬)

株当たり0.5個以上のツトが見られる場合は防除を行いましょう。

※若齢幼虫の形成するツトを見逃さないように注意しまししょう!



幼虫(頭が黒いのが特徴)

気がついた時には、殺虫剤の効果が出にくい中齢～老齢幼虫になっており、防除適期を逃してしまうので、ほ場の発生状況を見ながら適期に防除を行いましょう。



幼虫は葉を寄せた「つと」を作る



成虫(体長約 2cm)

4. 大雨で浸冠水したほ場等の対策

- 1) 排水溝や側溝にたまったゴミを除去し、早期の排水に努めます。排水溝が破損している場合は補修を行ってください。
- 2) 機械や施設が冠水した場合は、使用する前に販売店等に相談してください。(水抜きができていない状態で使用すると、重大な故障や事故につながる恐れがあります。)
- 3) 浸冠水の被害を受けた稲は体力が低下しているので、特にいもち病の発生に注意して下さい。
1日以上水に浸かった稲やいもち病に弱い品種は、排水後速やかに防除を行ない、液剤散布の場合は、葉に付着した泥を落とすように、登録の上限まで水量を多くして散布してください。
- 4) ほとんどのほ場は幼穂形成期を過ぎていると思われるので、排水後はそのままにせず、新しい水を入れ、水を切らさないよう湛水処理に努めてください。
- 5) 浸冠水の時間が長かったほ場では、葉枯れや穂枯れが発生することがあるので、こまめにほ場を見回り、異常があった場合はJAや普及センターに相談してください。
- 6) 浸水により生育が遅れたほ場ではイネツトムシが発生する可能性があるので、ほ場を観察し、必要に応じて防除を行って下さい。
- 7) 生育遅れ等により葉色が濃い場合は、追肥を見合わせてください。

○仙台管区气象台 7月20日発表

7月21日～7月27日までの東北地方週間天気予報

- ・向こう一週間は、期間の前半は低気圧の影響で曇りや雨の降る日がありますが、後半は高気圧に覆われて晴れる日が多いでしょう。
- ・最高気温は平年並か平年より高いですが、期間の前半は平年より低い所がある見込みです。
- ・最低気温は平年並か平年より高いでしょう。
- ・なお、22日～23日は、低気圧の発達程度等によっては、太平洋側では大雨となる恐れがあります。

農薬危害防止運動実施中(6月1日～8月31日)